

## 第6回農業塾 大原先生の講義

### 「人間と動物のかかわり」

#### 1 動物の家畜化

- ・人間は何種類かの動物を手なづけ、家畜として飼うようになってから、1万年以上たつ。
- ・人間が採取・狩猟しながら移動生活していたのが、定住生活をするにつれて、動物の家畜化がはじまったといえる。

#### 2 家畜と飼料

- ・それぞれの風土や地形等に適応した動物が家畜化しているので、地域によって特徴がある。その結果、それぞれの環境に適応した動物で人とのかかわりができた動物は餌を人からもらい、人間に肉や乳や何らかの役割を提供することで、地域に特徴的な家畜となった。
- ・このことは、植物でもいえることで、熱帯の植物（ベルファームにあるパパイヤ、ドラゴンフルーツなど）でもその環境（例えばベルファームの環境）に慣され、適応してくるものである。
- ・家畜の飼料が整う（豊富な）ところでは、家畜として上位にあげられる（おもに食肉用の）ウシ、ブタ、ニワトリの飼育が可能となっている。

#### 3 食肉消費の特徴

- ・食肉の消費量と所得とは、深い関係がある。
- ・一般的に、所得が高くなれば、食肉消費が増える傾向がある。欧米はもちろんのこと、もともと肉の消費が少なかったアジア地域でも経済発展で所得が向上すると共に肉の消費量が多くなっている。